Ⅰ　学校調査

１　幼稚園

[Ⅰ-1-1表] 　　主要指標の推移



（１）園　数

・　569園で、前年度より18園減少している。

・　設置者別では、国立1園(構成比0.2％)、公立230園(同40.4％)、私立338園(同59.4％)で、前年度より公立は17園、私立は1園、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市171園、堺市47園、吹田市31園の順である。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-1-1表・統計表1・付表-5]

（２）学級数

・　3,331学級で、前年度より115学級減少している。

・　設置者別では、国立6学級(構成比0.2％)、公立625学級(同18.8％)、私立2,700学級(同81.1％)で、前年度より公立は50学級、私立は65学級、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市961学級、堺市325学級、吹田市236学級の順である。

・　１園当たりの学級数は5.9学級で、前年度と同数である。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-1-1表・統計表1]

（３）在園者数

・　78,517人（男子39,603人、女子38,914人）で、前年度より3,425人減少している。

・　設置者別では、国立146人(構成比0.2％)、公立12,132人(同15.5％)、私立66,239人(同84.4％)で、前年度より国立は2人、公立は1,435人、私立は1,988人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児22,915人(構成比29.2％)、4歳児26,927人(同34.3％)、5歳児28,675人(同36.5％）で、前年度より3歳児は824人、4歳児は1,561人、5歳児は1,040人、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市23,168人、堺市7,722人、吹田市6,431人の順である。

・　１学級当たりの在園者数は23.6人で、前年度より0.2人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの在園者数は12.6人で、前年度より0.5人減少している。

[Ⅰ-1-1表・Ⅰ-1-2表・統計表2・付表-5]

[Ⅰ-1-2表] 　　入園年齢別在園者数



（４）入園者数

・　25,065人（男子12,794人、女子12,271人）で、前年度より2,650人減少している。

・　設置者別では、国立58人(構成比0.2％)、公立4,950人(同19.7％)、私立20,057人(同80.0％)で、前年度より公立は1,213人、私立は1,437人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児20,370人(構成比81.3％)、4歳児4,066人(同16.2％)、5歳児629人(同2.5％）で、前年度より3歳児は1,222人、4歳児は1,275人、5歳児は153人、それぞれ減少している。

[Ⅰ-1-2表・Ⅰ-1-3表]

[Ⅰ-1-3表] 　　設置者別男女別入園者数



　[Ⅰ-1-1図]　年齢別入園者数の推移 [Ⅰ-1-2図]　公立・私立別入園者数の推移

（５）認可定員及び定員充足率

・　認可定員は126,116人で、前年度より3,707人減少している。

また、設置者別では、国立150人(構成比0.1％)、公立28,981人(同23.0％)、私立96,985人(同76.9％)で、前年度より公立は3,058人、私立は649人、それぞれ減少している。

・　定員充足率は62.3％で、前年度より0.8ポイント低下している。

また、設置者別では、国立97.3％、公立41.9％、私立68.3％で、前年度より国立は1.4ポイント、公立は0.4ポイント、私立は1.6ポイント、それぞれ低下している。

[Ⅰ-1-4表・Ⅰ-1-3図]

[Ⅰ-1-4表] 　　認可定員・在園者数・定員充足率



[Ⅰ-1-3図] 公立・私立別定員充足率の推移

（６）教員数（本務者）

・　6,242人（男性275人、女性5,967人）で、

前年度より16人減少している。

・　設置者別では、国立10人（構成比0.2％)、

公立1,300人（同20.8％)、私立4,932人

（同79.0％)で、前年度より国立は1人増加

、公立は80人減少、私立は63人増加し

ている。

平成

　　　　　　　　　[Ⅰ-1-1表・統計表3]

２　幼保連携型認定こども園

[Ⅰ-2-1表] 　　主要指標の推移



（１）園　数

・　614園で、前年度より36園増加している。

・　設置者別では、公立80園(構成比13.0％)、私立534園(同87.0％)で、前年度より公立は3園、私立は33園、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市121園、大阪市55園、豊中市45園の順である。

[Ⅰ-2-1表･統計表7・付表-5]

（２）学級数（3から5歳児）

・　2,632学級で、前年度より128学級増加している。

・　設置者別では、公立365学級(構成比13.9％)、私立2,267学級(同86.1％)で、前年度より公立は16学級、私立は112学級、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市438学級、大阪市257学級、東大阪市242学級の順である。

・　1園当たりの学級数は4.3学級で、前年度と同数である。

[Ⅰ-2-1表・統計表7]

（３）在園者数

・　88,803人（男子45,535人、女子43,268人）で、前年度より3,532人増加している。

・　設置者別では、公立11,284人(構成比12.7％)で、私立77,519人(同87.3％)で、前年度より公立は254人、私立は3,278人、それぞれ増加している。

・　年齢別では、0歳児4,456人（構成比5.0％）、1歳児10,461人（同11.8％）、2歳児12,356人（同13.9％）、3歳児20,355人(同22.9％)、4歳児20,656人(同23.3％)、5歳児20,519人(同23.1％）で、前年度より0歳児144人、1歳児443人、2歳児468人、3歳児699人、4歳児854人、5歳児924人、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市17,127人、大阪市8,253人、東大阪市7,274人の順である。

・　3から5歳児の１学級当たりの在園者数は23.4人で、前年度より0.2人減少している。

・　教育・保育職員(本務者)１人当たりの在園者数は6.2人で、前年度と同数である。

[Ⅰ-2-2表] 　　　　入園年齢別在園者数



（４）入園者数（3から5歳児）

・　11,829人（男子5,969人、女子5,860人）で、前年度より2,897人減少している。

・　設置者別では、公立2,096人(構成比17.7％)、私立9,733人(同82.3％)で、前年度より公立は572人、私立は2,325人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児8,338人(構成比70.5％)、4歳児2,218人(同18.8％)、5歳児1,273人(同10.8％）で、前年度より3歳児は670人、4歳児は1,092人、5歳児は1,135人、それぞれ減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-2-2表・Ⅰ-2-3表]

[Ⅰ-2-3表] 　　設置者別男女別入園者数



[Ⅰ-2-1図] 年齢別在園者数　　　　　　　　[Ⅰ-2-2図] 公立・私立別在園者数の推移

私立

公立

（５）認可定員及び定員充足率

・ 認可定員は97,743人で、前年度より4,318人増加している。

また、設置者別では、公立13,538人(構成比13.9％)、私立84,205人(同86.1％)で、前年度より公立は455人、私立は3,863人、それぞれ増加している。

・　定員充足率は90.9％で、前年度より0.4ポイント低下している。

　また、設置者別では、公立83.4％、私立92.1％で、前年度より公立は0.9ポイント、私立は0.3ポイント、それぞれ低下している。

[Ⅰ-2-4表･Ⅰ-2-3図]

[Ⅰ-2-4表] 　　認可定員・在園者数・定員充足率



[Ⅰ-2-3図]　公立・私立別定員充足率の推移

平成

（６）教育・保育職員数（本務者）

・　14,422人（男性692人、女性13,730人）で、前年度より559人増加している。

・　設置者別では、公立1,697人（構成比11.8％)、私立12,725人（同88.2％)で、前年度より公立は41人減少、私立は600人増加している。

[Ⅰ-2-1表・統計表9]

３　小学校

[Ⅰ-3-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　996校で、前年度より3校減少している。

・　設置者別では、国立3校(構成比0.3％)、公立976校(同98.0％)、私立17校(同1.7％)で、前年度より公立は3校減少している。

・　市町村別では、大阪市301校、堺市94校、東大阪市49校の順に多く、能勢町・田尻町1校、忠岡町・太子町・河南町・千早赤阪村2校の順に少ない。

[Ⅰ-3-1表・統計表13・付表-5]

（２）学級数

・　19,007学級で、前年度より191学級増加している。

・　設置者別では、国立54学級(構成比0.3％)、公立18,725学級(同98.5％)、私立228学級(同1.2％)で、前年度より公立は194学級増加、私立は3学級減少している。

・　学級編制方式別では、単式学級13,785学級(構成比72.5％)、複式学級12学級(同0.1％)、特別支援学級5,210学級(同27.4％)で、前年度より単式学級は118学級減少、複式学級は2学級増加、特別支援学級は307学級増加している。

・　市町村別では、大阪市5,356学級、堺市1,800学級、豊中市978学級の順に多く、能勢町・千早赤阪村18学級、田尻町19学級の順に少ない。

また、前年度より、大阪市105学級、吹田市33学級、豊中市28学級の順に増加し、高槻市14学級、門真市6学級、泉大津市・和泉市・柏原市・四條畷市4学級の順に減少している。　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-3-1表・Ⅰ-3-2表・統計表13・付表-5]

[Ⅰ-3-2表] 　 学級編制方式別学級数・児童数

（３）児童数

・　427,884人（男子218,708人、女子209,176人）で、前年度より5,129人減少している。

・　設置者別では、国立1,855人(構成比0.4％)、公立419,558人(同98.1％)、私立6,471人(同1.5％)で、前年度より国立は6人、公立は5,105人、私立は18人、それぞれ減少している。

・　学級編制方式別では、単式学級399,913人(構成比93.5％)、複式学級86人(同0.0％)、特別支援学級27,885人(同6.5％)で、前年度より単式学級は7,305人減少、複式学級は18人増加、特別支援学級は2,158人増加している。

・　市町村別では、大阪市118,729人、堺市43,533人、豊中市22,448人の順に多く、千早赤阪村192人、能勢町286人、田尻町469人の順に少ない。

また、前年度と比べると吹田市303人、豊中市209人、箕面市94人の順に増加し、堺市802人、東大阪市593人、枚方市434人の順に減少している。

・　１学級当たりの児童数は22.5人で、前年度より0.5人減少している。

　また、市町村別では、大阪狭山市25.3人、田尻町24.7人、和泉市・熊取町24.3人の順に多い。

・　教員(本務者)１人当たりの児童数は15.0人で、前年度より0.3人減少している。

[Ⅰ-3-1表・Ⅰ-3-2表・Ⅰ-3-3表・統計表14・付表-5]

[Ⅰ-3-3表] 設置者別男女別児童数



[Ⅰ-3-4表] 　　　学年別児童数



（４）帰国児童数・外国人児童数

・　帰国児童数は506人で、前年度間より138人増加している。

・　外国人児童数は4,962人で、前年度より304人増加している。

[Ⅰ-3-5表・Ⅰ-3-6表]

[Ⅰ-3-5表] 　 帰国児童数 　　　[Ⅰ-3-6表]　　外国人児童数



（５）教員数（本務者）

・　28,574人（男性10,917人、女性17,657人）で、前年度より255人増加している。

・　設置者別では、国立79人(構成比0.3％)、公立28,053人(同98.2％)、私立442人(同1.5％)で、前年度より国立は1人、公立は251人、私立は3人、それぞれ増加している。

[Ⅰ-3-1表・統計表16]

４　中学校

[Ⅰ-4-1表] 　　主要指標の推移 (注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「学級数」「生徒数」「担当教員数」は含まれていない。

（１）学校数

・　519校で、前年度より2校減少している。

・　設置者別では、国立3校(構成比0.6％)、公立453校(同87.3％)、私立63校(同12.1％)で、前年度より公立は2校減少している。

・　市町村別では、大阪市158校、堺市47校、東大阪市25校の順に多く、能勢町・忠岡町・田尻町・岬町・河南町・千早赤阪村1校、豊能町・太子町2校の順に少ない。

[Ⅰ-4-1表・統計表22・付表-5]

（２）学級数

・　8,129学級で、前年度より101学級増加している。

・　設置者別では、国立33学級(構成比0.4％)、公立7,440学級(同91.5％)、私立656学級(同8.1％)で、前年度より公立は95学級、私立は6学級、それぞれ増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級6,135学級(構成比75.5％)、複式学級1学級（同0.0％）、特別支援学級1,993学級(同24.5％)で、前年度より単式学級は27学級減少、複式学級は同数、特別支援学級は128学級増加している。

・　市町村別では、大阪市2,307学級、堺市757学級、東大阪市422学級の順に多く、千早赤阪村5学級、能勢町9学級、田尻町・岬町12学級の順に少ない。

また、前年度より、大阪市62学級、枚方市20学級、豊中市6学級の順に増加し、高槻市11学級、堺市9学級、貝塚市・羽曳野市4学級の順に減少している。

[Ⅰ-4-1表・Ⅰ-4-2表・統計表22・付表-5]

[Ⅰ-4-2表]　 学級編制方式別学級数・生徒数



（３）生徒数

・　220,342人（男子112,510人、女子107,832人）で、前年度より1,084人減少している。

・　設置者別では、国立1,188人(構成比0.5％)、公立197,648人(同89.7％)、私立21,506人(同9.8％)で、前年度より、国立は44人減少、公立は1,400人減少、私立は360人増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級210,750人(構成比95.6％)、複式学級4人（同0.0％）、特別支援学級9,588人(同4.4％）で、前年度より単式学級は1,978人減少、複式学級は1人減少、特別支援学級は895人増加している。

・　市町村別では、大阪市60,803人、堺市21,804人、東大阪市11,218人の順に多く、千早赤阪村98人、能勢町181人、田尻町274人の順に少ない。

また、前年度より、大阪市579人、豊中市128人、島本町96人の順に増加し、吹田市258人、堺市201人、岸和田市141人の順に減少している。

・　１学級当たりの生徒数は27.1人で、前年度より0.5人減少している。

また、市町村別では、高石市31.8人、交野市30.9人、寝屋川市29.8人の順に多い。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は13.1人で、前年度より0.1人減少している。

[Ⅰ-4-1表・Ⅰ-4-2表・Ⅰ-4-3表・統計表23・付表-5]

 [Ⅰ-4-3表]　 　 　 設置者別男女別生徒数

[Ⅰ-4-4表] 学年別生徒数



（４）帰国生徒数・外国人生徒数

・　帰国生徒数は187人で、前年度間より25人増加している。

・　外国人生徒数は2,013人で、前年度より4人減少している。

[Ⅰ-4-5表・Ⅰ-4-6表]

[Ⅰ-4-5表]　 帰国生徒数 　　　　 　[Ⅰ-4-6表]　外国人生徒数

 　　　　

　　　　　　　　　 　　　　　　　　　(注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の生徒数

は含まれていない。

（５）教員数（本務者）

・　16,867人（男性9,174人、女性7,693人）で、前年度より90人増加している。

・　設置者別では、国立63人(構成比0.4％)、公立15,406人(同91.3％)、私立1,398人(同8.3％)で、前年度より国立は1人減少、公立は78人増加、私立は13人増加している。

[Ⅰ-4-1表・統計表25]

（６）夜間その他特別な時間において授業を行っている学校

生徒数は647人で、前年度より114人減少している。

　[Ⅰ-4-7表]

[Ⅰ-4-7表] 夜間その他特別な時間において授業を行っている

学校数・学級数・生徒数及び担当教員数(公立)



５　義務教育学校

 [Ⅰ-5-1表] 　　主要指標の推移

(注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「生徒数」「担当教員数」は含まれていない。

（１）学校数

　　7校で、前年度と同数である。　　　　　　　　　　　　 　　　 [Ⅰ-5-1表・統計表31]

（２）児童生徒数

・　4,162人（男子2,081人、女子2,081人）で、前年度より32人減少している。

・　教員（本務者）１人当たりの児童生徒数は11.4人で、前年度より0.3人減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-5-1表・Ⅰ-5-2表・統計表32]

 [Ⅰ-5-2表]　　　　　　　　　課程別・学年別児童生徒数

（３）教員数（本務者）

366人（男性177人、女性189人）で、前年度より8人増加している。

[Ⅰ-5-1表・統計表34]

（４）夜間その他特別な時間において授業を行っている学校

　　生徒数は112人で、前年度より27人　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-5-3表]

　　減少している。　　　　　　　　　 　　　　　夜間その他特別な時間において授業を行う学校

　　　　[Ⅰ-5-3表] 　　　数・学級数・生徒数及び担当教員数(公立)



６　高等学校（全日制・定時制）

[Ⅰ-6-1表] 　　主要指標の推移

（１）学校数

・　256校で、前年度より4校減少している。

・　設置者別では、国立1校(構成比0.4％）、公立159校(同62.1％）、私立96校(同37.5％）で、前年度より公立は3校、私立は1校、それぞれ減少している。

・　課程別では、全日制課程のみを置く学校が234校、定時制の課程のみを置く学校が5校、全日制・定時制の両課程を併置している学校が17校である。

・　市町村別では、大阪市90校、堺市24校、東大阪市14校の順である。

[Ⅰ-6-1表・統計表36・付表-5]

（２）学科数

・　325学科で、前年度より12学科減少している。

・　課程別では、全日制課程300学科、定時制課程25学科である。

・　学科分野別では、普通科196学科、専門教育を行う学科として農業科2学科、工業科23学科、商業科13学科、家庭科3学科、看護科3学科、福祉科2学科、その他の学科48学科、総合学科35学科である。　　　　　　　　　　　　　 　 [Ⅰ-6-2表]

[Ⅰ-6-2表] 　　　　課程別学科数



（３）生徒数

・　214,115人（男子107,181人、女子106,934人）で、前年度より6,389人減少している。

・　設置者別では、国立1,330人(構成比0.6％）、公立121,055人(同56.5％）、私立91,730人(同42.8％）で、前年度より国立は8人、公立は5,265人、私立は1,116人、それぞれ減少している。

・　課程別では、全日制課程210,934人(構成比98.5％)、定時制課程3,181人(同1.5％)で、前年度より全日制課程は6,082人、定時制課程は307人、それぞれ減少している。

・　学科分野別では、普通科158,992人(構成比74.3％)が最も多く、次いでその他20,555人(同9.6％)、総合学科17,042人(同8.0％)、工業科11,046人（同5.2％)、商業科3,772人 (同1.8％）となっている。

・　市町村別では、大阪市74,244人、堺市19,639人、東大阪市12,753人の順に多い。

また、前年度より、島本町907人、池田市82人、藤井寺市52人の順に増加し、大阪市2,439人、高槻市1,163人、堺市698人の順に減少している。

・　１校当たりの生徒数は836.4人で、前年度より11.7人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は14.8人で、前年度より0.3人減少している。

[Ⅰ-6-1表・Ⅰ-6-3表・Ⅰ-6-4表・統計表38・付表-5]

[Ⅰ-6-3表] 　　設置者別生徒数



[Ⅰ-6-4表] 　　　学科別生徒数



[Ⅰ-6-5表] 　　学年別生徒数



[Ⅰ-6-1図]　 学科別生徒数

[Ⅰ-6-2図] 学科別生徒数の推移

平成

（４）帰国生徒数・外国人生徒数

・　帰国生徒数は105人で、前年度間より10人減少している。

・　外国人生徒数は1,354人で、前年度より4人増加している。

[Ⅰ-6-6表・Ⅰ-6-7表]

[Ⅰ-6-6表]　　帰国生徒数 　　　　　　 [Ⅰ-6-7表] 外国人生徒数



（５）入学状況

・　入学定員は78,038人で、前年度より820人減少している。

また、設置者別では、国立440人（構成比0.6％）、公立42,362人（同54.3％）、私立35,236人（同45.2％）で、前年度より公立は1,101人減少、私立は281人増加している。

・　入学志願者は122,851人で、前年度より3,711人減少している。

また、設置者別では、国立546人（構成比0.4％）、公立46,554人（同37.9％）、私立75,751人（同61.7％）で、前年度より国立は1人増加、公立は2,094人減少、私立は1,618人減少し

ている。

・　入学者は71,578人で、前年度より1,199人減少している。

また、設置者別では、国立447人（構成比0.6％）、公立39,882人（同55.7％）、私立31,249人（同43.7％）で、前年度より国立は1人減少、公立は1,382人減少、私立は184人増加している。

[Ⅰ-6-8表・統計表41]

[Ⅰ-6-8表] 入学状況



（６）教員数（本務者）

・　14,451人（男性9,539人、女性4,912人）で、前年度より163人減少している。

・　設置者別では、国立84人(構成比0.6％)、公立9,074人(同62.8％)、私立5,293人(同36.6％)で、前年度より公立は198人減少、私立は35人増加している。

・　課程別では、全日制課程13,888人(構成比96.1％）、定時制課程563人(同3.9％）で、前年度より全日制課程は173人減少、定時制課程は10人増加している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-6-1表・統計表42]

７　高等学校（通信制）

[Ⅰ-7-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　13校で、前年度より3校増加している。

・　設置者別では、公立1校(構成比7.7％)、私立12校(同92.3％)である。

・　独立校（通信制課程のみの学校)は、私立11校である。

[Ⅰ-7-1表]

（２）生徒数

・　17,148人（男子9,317人、女子7,831人）で、前年度より450人増加している。

・　設置者別では、公立1,963人(構成比11.4％)、私立15,185人(同88.6％)である。

[Ⅰ-7-1表・統計表49]

（３）教員数（本務者）

・　326人（男性199人、女性127人）で、前年度より34人増加している。

・　設置者別では、公立45人(構成比13.8％)、私立281人(同86.2％)である。

[Ⅰ-7-1表]

８　中等教育学校

[Ⅰ-8-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

1校で、前年度と同数である。

[Ⅰ-8-1表]

（２）生徒数

・　238人（男子163人、女子75人）で、前年度より121人減少している。

・　課程別では、前期課程は83人で、前年度より43人減少、後期課程は155人で、前年度より78人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は9.5人で、前年度より1.4人減少している。

[Ⅰ-8-1表・Ⅰ-8-2表]

[Ⅰ-8-2表] 　　 　課程別生徒数



（３）教員数（本務者）

25人（男性16人、女性9人）で、前年度より8人減少している。

[Ⅰ-8-1表]

９　特別支援学校

[Ⅰ-9-1表] 　　主要指標の推移

（１）学校数

・　50校で、前年度と同数である。

・　設置者別では、国立1校、公立49校（府立46校、市立3校）で、前年度と同数である。

[Ⅰ-9-1表・統計表50]

（２）在学者数

・　9,553人（男子6,283人、女子3,270人）で、前年度より2人減少している。

・　設置者別では、国立59人(構成比0.6％)、公立9,494人（同99.4％）（府立9,155人(同95.8％)、市立339人(同3.5％)）である。

・　部別では、幼稚部88人(構成比0.9％)、小学部2,775人(同29.0％)、中学部2,518人(同26.4％)、高等部4,172人(同43.7％)である。

・　１学級当たりの在学者数は4.0人で、前年度より0.1人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの在学者数は1.8人で、前年度と同数である。

　[Ⅰ-9-1表・Ⅰ-9-2表・統計表51]

[Ⅰ-9-2表] 　　男女別在学者数

（３）教員数（本務者）

・　5,414人（男性2,249人、女性3,165人）で、前年度より36人増加している。

・　設置者別では、国立30人(構成比0.6％)、公立5,384人（同99.4％）（府立5,190人(同95.9％)、市立194人(同3.6％)）である。 　　　[Ⅰ-9-1表・統計表53]

１０　専修学校

[Ⅰ-10-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　224校で、前年度より1校増加している。

・　設置者別では、国立1校(構成比0.4％)、公立1校(同0.4％)、私立222校(同99.1％)で、前年度より私立は1校増加している。

・　市町村別では、大阪市165校、堺市16校、東大阪市5校の順に多く、全体の73.7％が大阪市に集中している。

[Ⅰ-10-1表・統計表54]

（２）学科数

・　964学科で、前年度より1学科増加している。

・　設置者別では、国立1学科（構成比0.1％)、公立1学科（同0.1％)、私立962学科(同99.8％)で、前年度より私立は1学科増加している。　　　　　　　　　 [統計表54]

（３）生徒数

・　74,596人（男子32,369人、女子42,227人）で、前年度より453人増加している。

・　設置者別では、国立36人(構成比0.0％)、公立71人(同0.1％)、私立74,489人(同99.9％）で、前年度より国立は3人減少、公立は3人増加、私立は453人増加している。

・　課程別では、高等課程4,807人(構成比6.4％)、専門課程69,509人(同93.2％)、一般課程280人(同0.4％)で、前年度より高等課程は49人減少、専門課程は617人増加、一般課程は115人減少している。

・　分野別では、文化・教養関係22,393人(同30.0％)が最も多く、次いで医療関係18,215人(構成比24.4％)、工業関係11,267人(同15.1％)となっている。医療関係の中では看護7,288人、文化・教養関係の中ではその他6,427人、衛生関係の中では美容4,688人が、それぞれ最も多い。

・　１校当たりの生徒数は333.0人で、前年度より0.5人増加している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は19.3人で、前年度より0.3人増加している。

　[Ⅰ-10-1表・Ⅰ-10-3表・Ⅰ-10-4表・Ⅰ-10-1図・I-10-2図・統計表54・55]

[Ⅰ-10-2表]　 　　　類型別学校数



[Ⅰ-10-3表] 　　課程別生徒数



[Ⅰ-10-4表] 　　分野別生徒数



[Ⅰ-10-1図] 　分野別生徒数の推移

[Ⅰ-10-2図] 　　　学科別生徒数の割合



（４）入学者数

・　令和２年４月１日から５月1日までの１か月間の入学者数は35,064人（男子15,223人、女子19,841人）で、前年度より568人減少している。

・　設置者別では、国立16人（構成比0.0％)、公立31人（同0.1％)、私立35,017人（同99.9％)である。

・　課程別では、高等課程1,763人(構成比5.0％)、専門課程33,055人(同94.3％)、一般課程246人(同0.7％)で、前年度より高等課程は187人、専門課程は254人、一般課程は127人、それぞれ減少している。

[Ⅰ-10-5表・統計表55]

[Ⅰ-10-5表]　課程別入学者数



（５）卒業者数

・　平成31年４月１日から令和２年３月31日までの１年間の卒業者数は29,340人（男子12,431人、女子16,909人）で、前年度間より713人減少している。

・　設置者別では、国立15人（構成比0.1％)、公立26人（同0.1％)、私立29,299人（同99.9％)である。

・　課程別では、高等課程1,508人(構成比5.1％)、専門課程27,455人(同93.6％)、一般課程377人(同1.3％)で、前年度間より高等課程は283人、専門課程は269人、一般課程は161人、それぞれ減少している。

・　卒業者のうち関係分野に就職した者は18,813人で、卒業者数全体の64.1％を占めている。また、課程別では、高等課程360人(高等課程卒業者の23.9％)、専門課程18,453人(専門課程卒業者の67.2％)である。

[Ⅰ-10-6表・統計表55]

[Ⅰ-10-6表] 課程別卒業者数



（６）教員数（本務者）

・　教員数(本務者)は3,873人（男性1,909人、女性1,964人）で、前年度より20人減少している。

・　設置者別では、国立3人(構成比0.1％)、公立4人(同0.1％)、私立3,866人(同99.8％)で、前年度より私立は20人減少している。

[Ⅰ-10-1表・統計表54]

１１　各種学校

[Ⅰ-11-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　40校で、前年度より1校増加している。

・ 市町村別では、大阪市26校、東大阪市6校、堺市2校の順に多く、全体の65.0％が大阪市に集中している。

[Ⅰ-11-1表・統計表56]

（２）課程数

74課程で、前年度より2課程増加している。

　　　　　　　　　　　　　　　　[統計表56]

（３）生徒数

・　8,506人（男子5,077人、女子3,429人）で、前年度より1,852人減少している。

・　修業年限別では、1年未満の課程699人（構成比8.2％）、1年以上の課程7,807人（同91.8％)である。

・　分野別では、その他7,232人(構成比85.0％)が最も多く、次いで文化・教養関係621人(同7.3％)、商業実務関係426人(同5.0％）となっている。その他の内訳を見ると、予備校4,209人、外国人学校2,415人、自動車操縦608人の順に多い。

・　１校当たりの生徒数は212.7人で、前年度より52.9人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は19.1人で、前年度より5.6人減少している。

[Ⅰ-11-1表・I-11-2表・I-11-3表・Ⅰ-11-1図・統計表57]

　[Ⅰ-11-2表] 分野別生徒数



[Ⅰ-11-1図] 　　分野別生徒数の推移

（４）入学者数

・　令和２年４月１日から５月1日までの１か月間の入学者数は5,101人（男子3,439人、女子1,662人）で、前年度より1,552人減少している。

・　課程別では、その他4,678人が最も多い。その内訳を見ると、予備校4,209人が最も多く、入学者数の82.5％を占めている。

　　　　　 　　 [I-11-4表・統計表57]

|  |  |
| --- | --- |
| [Ⅰ-11-3表]  修業年限別生徒数 | [Ⅰ-11-4表]  生徒数・入学者数・卒業者数 |

（５）卒業者数

・　平成31年４月１日から令和２年３月31日までの１年間の卒業者数は9,212人（男子5,912人、女子3,300人）で、前年度間より164人減少している。

・　課程別では、その他8,153人が最も多い。その内訳を見ると、予備校5,121人が最も多く、卒業者数の55.6％を占めている。

[統計表57]

（６）教員数

教員数(本務者)は445人（男性233人、女性212人）で、前年度より25人増加している。

　　　　　　　　　　　　　　　 [I-11-1表・統計表56]